

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0770200814		
法人名	特定非営利活動法人 カオス		
事業所名	グループホーム こすもす		
所在地	福島県会津若松市神指町黒川湯川東2 2 8 番地 (電 話) 0242-24-9711		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H21.2.12	評価確定日	H21.3.23

【情報提供票より】(平成20年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 3月31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 6人, 非常勤 6人, 常勤換算9.025人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2		3 名	
要介護3		要介護4		1 名	
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 80.6 歳	最低	77 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	入澤泌尿器科クリニック、大塩歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者一人ひとりに合わせた介護や利用者が出来ることを大事にしていく介護を心がけている。家族の訪問時等に介護計画の説明を行い、意見や要望を介護計画に反映させるように努めている。家族に対して、利用者の暮らし方や健康状態等をこまめに報告し、希望すれば介護日誌を公開している。利用者は、日々の生活の中でその人の力に応じた役割があり、毎月行われる昔からの行事を楽しむなど張り合いのある日々を過ごしている。職員は利用者を人生の先輩として接し、利用者がよりよい生活を送ってもらえるよう意欲的に取り組んでいる。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題となっていた「地域との付き合い」や「町内会への加入」については、現在町内会長に検討してもらっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が項目を分担して行い、それをもとに項目ごとにサービス評価ガイドブックと照らし合わせて職員全員で話し合いを行ってまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	ホ-ムの近況報告、重度化への対応、看取り介護等を提起し、意見交換を行っている。その中で出された意見は職員で話し合い、運営に活かすように努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の訪問時に意見や要望を聞くように努めている。個別的なものは介護計画に取り入れたり、共通的なものはミーティング等で話し合い業務に活かしている。苦情に対応するために第三者委員規程を設けた。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	広報誌を近所に配布したり、ホ-ムの夏祭りやクリスマス会に近所の人を招待したりしている。また、近くの中学校の演奏会や文化祭に招待され参加したりし地域との交流を図っている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を踏まえ、職員間で話し合い「住み慣れた地域で、より家庭に近い環境を整え、お一人おひとりに応じたケアを行います」という理念を作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや経過観察等において具体的なケアと結びつけながら、理念に基づいた実践が行われているかを話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	広報誌を近所に配布したり、ホ - ムの夏祭りやクリスマス会に招待したりしている。中学校の演奏会や文化祭に招待され参加している。現在、町内会への加入について町内会長に検討してもらっている。		事業者が住宅地から離れているという立地条件の課題もあるが、災害時における地域住民の協力も含めて地域との連携を引き続き働きかけてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価、外部評価の意義を職員に説明している。自己評価は、サービス評価ガイドブックと照らし合わせながら全員で話し合いを行ってまとめた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。ホ-ムの近況報告や重度化への対応、看取り介護などを提起し、会議メンバーと意見交換を行い、運営に活かしている。		
6	9				
4.理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真入りでホ-ムでの暮らしぶり、職員の異動等を広報誌(年4回発行)で報告している。また、家族の訪問時等に利用者の近況について話をしたり、金銭管理については月毎に収支を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見・要望等は訪問時に聞くように努め、個別的なものは介護計画に反映させたり、共通的なものはミーティング等で話し合い、業務に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動に当たっては、その都度家族に紹介したり、広報誌でお知らせしたりして利用者・家族の不安解消を図っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修、事業所内の研修を毎月行っている。外部研修については、職員の希望や段階に応じて選択し、参加をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県グル-ブホ-ム連絡協議会が主催する研修に参加し、他事業所との交流を図っている。また会津排泄ケア研究会のメンバーとして他職種との交流も行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入浴や買い物など利用者と1対1で会話できる場を利用して話を引き出したり、お互いに寄り添いながら日々過ごすようにしている。その中で利用者から料理や昔の行事のなどを教えてもらうなど支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症介護研究・研修東京センター方式のシートを活用して、利用者の現在の状態について、把握に努めると共に、日々の関わりの中で利用者が話した言葉や表情などをそのまま介護日誌に記録し、情報を共有している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の訪問時等に介護計画の説明を行い、意見や要望を聞き介護計画に反映させるように努めている。ミーティングや検討会議等で利用者の状態や思いを出し合い、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に経過観察を行い介護計画の見直しを行っている。状態に変化があった場合は、検討会議を行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は利用者や家族が希望するかかりつけ医とし、家族が同行することを基本としている(緊急の場合は職員が同行している)。受診の際は家族に口頭で利用者の情報提供を行い、受診結果の報告も家族からその都度受けられている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の急変した場合の対応(搬送先等)について家族と話し合っている。終末期の対応については、事業所としてどこまで出来るか、どんなことが不安なのか等を職員間で話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	否定しない・指示命令しない介護を基本としている。ミーティング等でプライバシーを損ねるような排泄介助(言葉かけ)をしないことを注意するようにしている。また広報誌への写真掲載の同意、記録等の個人情報の管理も適切に行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床、食事、就寝等利用者の一人ひとりのペースを大切に支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の希望を取り入れ、利用者職員が毎日買い物に行っている。利用者の力に合わせて、調理、盛り付け、配膳、後片付け等を職員と一緒にしている。職員も一緒に食事しながら必要な介助を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能であり、利用者の意向に沿って入浴の支援を行っている。入浴をあまり好まない利用者には、足浴やシャワーで対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	日常の暮らしの中で、調理、盛り付け、洗濯ものたたみなどその人の力に応じて役割を果たしてもらっている。月毎に昔からの行事を企画し、弁当を取り寄せたりして楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者それぞれのペースにあわせた散歩、買い物、ドライブなどなるべく自然に触れる機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状況を常に把握するように努め、日中は鍵をかけていない。外出しそうな利用者には、話しながら一緒について行くよう見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練(1回は消防署の指導を受けて実施)を実施している。夜間想定避難訓練も実施しているが、職員が地域住民の役になって参加している。災害時における食料、飲料水等の準備はしていない。		夜間、職員が一人となることを想定した避難訓練を実施するとともに、具体的な役割を決めた上で地域の人も参加した避難訓練も行なってほしい。災害時における食料、飲料水、毛布等物品を準備してほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分量は毎日チェックされている。献立表について協力医療機関の栄養士に指導を受けている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔のタンス、ミシンなどが置かれ、台所から調理をする匂い、音など家庭的な温かい雰囲気がある。利用者にとって不快な光や音がないよう適切な配慮がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族との写真、花などが飾られ、今まで使っていたベッド、布団、タンス、椅子などが持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(別紙1)を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム こすもす

記入担当者名 逸持治 幸子

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。